市政に関する一般質問の概要

6月11日、12日に議員18名が市の考えをただしました。主な質問、答弁の要旨を紹介します。

やすらぎ支援員推進事業について

市政クラブ　坂本　俊六

問：認知症高齢者の行動は、予測がつきにくく、介護者は常に注意を払わなくてはならず、気の休まる時間を確保するのが難しい状況にあります。介護疲れから、健康を害したり、日常生活を落ち着いて送れないこと等により、虐待等の悲惨な結果を招くこともあります。

このような状況を少しでも改善し、介護者の介護負担の軽減と日常生活を安らかに過ごしていただくため、「やすらぎ支援員推進事業」を推進してはどうか伺います。

答（保健福祉部長）：やすらぎ支援員推進事業は、国の制度として、在宅で暮らす認知症の高齢者やその家族を支援するため、家族の方の外出時や休養が必要な時に、「やすらぎ支援員」が自宅を訪問し、高齢者の話し相手や見守りを行うものです。

この事業は、直接身体に触れる介護は行わないことになっており、自宅訪問に抵抗感がある世帯もあります。本市では、現在、地区社協に「ふれあい相談員」を設置することを進めており、これが「やすらぎ支援員」の役割を担うものと考えています。

世界大不況　国の経済対策における市の対応は

新政海クラブ　市川　敏彦

問：米国の金融危機に端を発する世界経済の悪化は、わが国にも多大な影響をおよぼしています。百年に一度という現下の危機的経済状況を踏まえ、国では、15兆円規模の補正予算を編成し地方公共団体が活用できる予算を計上しているとのことです。20年の秋以降、国の経済対策を受け市でも対応を進めてきていると思いますが、今回の経済対策に関する補正予算について、市の考え方と各種事業の検討状況を伺います。

答（市長）：自治体に対する多岐にわたる財政支援策も徐々に明らかになってきていますが、市では、財源確保を図りつつも市民にとって必要な事業を選択し、実施することが基本だと考えています。制度が固まった支援策については、速やかに補正予算を編成し議会に提案させていただきます。

問：文化会館の大規模改修にあたっては、建設当時と異なる利用実態や市民需要に対応するため、多くの市民、利用者の声を聞き、改修に対する新たなコンセプトを設定することが重要です。市民や利用者の声をどのように計画に反映したのか。また、大規模改修にかかる費用を伺います。

答（市長）：時代の要請を踏まえ、現地確認や、各種調査結果をもとに、やさしさ・あんしん・やすらぎ・エコロジー・アメニティの5つのキーワードを計画コンセプトとして設定しました。市民意識の反映については市長への手紙、利用者や文化団体へのアンケート、市長懇談会などを通じ、さまざまな声を聞きました。概算工事費は、16億7000万円を見込んでいます。

▲より市民が利用しやすい文化会館に

ぬくもり号試験運行　市の支援は

共産党　佐々木　弘

問：社会福祉協議会の自主事業である「ぬくもり号」が、22年3月まで試験運行されることとなりました。これまで共産党市議団が求め続けてきた高齢者や障がい者といった交通弱者の外出支援や下今泉、上郷などの公共交通が不便な地域への対応策として有意義な第一歩と考えます。今後の試験運行を経て、実施主体の社会福祉協議会が運行本数や車両台数を増強すると判断した場合、財政面を含めた支援を市として行う考えがあるか伺います。

▲交通弱者の一助が期待される「ぬくもり号」

答（保健福祉部長）：今回のぬくもり号の試験運行は新規事業であり、さまざまな問題も予想されるため、利用者の声が反映されるよう要請するとともに、より良い事業となるよう社会福祉協議会と協議しながら積極的に支援していきます。

なぜJR相模線の平面踏切を閉鎖するのか

新政海クラブ　鶴指　眞澄

問：さがみ縦貫道路海老名ジャンクション内には、相模線を横切って、2つの生活道路があります。平成6年の都市計画決定以降、市と日本道路公団（現・中日本高速道路㈱）および住民との協議で、2つの道路を1つにし、5メートル幅の道路で平面踏切は残すことで合意していましたが、14年7月に突然市は、JRの要望で平面踏切を閉鎖し、立体交差とすることを地元に合意もなく通知しました。立体交差では、高齢者や障がい者、自転車等が相模線を横断しづらくなります。そのため、自治会長、対策委員長名で平面踏切閉鎖反対の要望書を市長に再三提出するも進展がないため、21年3月、自治会は、踏切閉鎖反対の署名を集め、市長へ陳情書を提出しました。地元住民の要望は無視し、なぜJRの要望だけを取り入れるのか。

答（建設部長）：ジャンクション内は橋脚が乱立し、列車の安全運行上支障があるため立体交差が提案され、この立体化について地元との協議説明会を13年10月から半年間で6回実施しています。市は一貫して地元の安全対策と合意形成を日本道路公団に要請しましたが、JR東日本の理解が得られないため、立体による機能回復で対応せざるを得ないと判断し、その旨自治会等へも説明しました。また、陳情書については地元市議会議員、自治会役員同席のもと、市長がJR東日本横浜支社へ出向き地元要望を伝えております。以上の経過を踏まえ中日本高速道路㈱の事業における役割と市が進める周辺道路整備の推進を図っていくことで、地域の理解を得るよう努力します。

▲生活道路にある踏切が閉鎖に…

詳しい内容は会議録で

6月定例会の会議録を作成中です。9月には市役所1階の情報公開コーナーや中央図書館で閲覧できますので、ご利用ください。また市のホームページでも見ることができます。

農業政策には土地政策が必要と考える

海政会　森田　完一

問：住宅開発を中心とした都市化の進行で農地は減少傾向にあり、農地をどう守っていくかという視点に農業政策が変化しています。土地政策こそが農業を守る基本であり、農業政策に真に必要と考えます。農地を含め、土地全体を快適な都市作りの空間地や緑地としてデザインする総合的都市農業中心の総合的土地利用のあり方について伺います。

答（市長）：農業政策は、国の根幹に関わる問題であり、一地方自治体においての取り組みには限界があると思われますが、本市におきましては、農業後継者の育成、農地の維持保全、地産地消による農産物の販路拡大や都市農業という立地を活かした栽培方法の導入により安定的かつ効率的な農業経営を図ることが課題であると考えます。

▲市内に広がる田園風景

議会日誌

■5月
- 11・議員全員協議会
- 12・総務常任委員会行政視察（5／12～14）愛媛県松山市他
- ・文教社会常任委員会行政視察（5／12～14）京都府向日市他
- 19・議会運営委員会
- 25・第2回臨時会
- ・議会運営委員会

■6月
- 1・議会運営委員会
- ・第2回定例会第1日
- 5・総務常任委員会
- 8・文教社会常任委員会
- 9・経済建設常任委員会
- 11・議会運営委員会
- ・第2回定例会第2日
- 12・第2回定例会第3日
- 18・議会運営委員会
- ・第2回定例会第4日
- ・議員全員協議会
- ・広報委員会
- 23・議会運営委員会
- 26・富山県小矢部市議会視察来庁
- 29・第3回臨時会第1日
- ・文教社会常任委員会
- ・経済建設常任委員会
- 30・総務常任委員会
- ・第3回臨時会第2日

■7月
- 6・経済建設常任委員会行政視察（7／6～8）鳥取県鳥取市他
- 10・議員全員協議会
- 17・岩手県二戸市議会視察来庁
- 23・静岡県磐田市議会視察来庁